

『高校生誌上座談会』

コロナ禍の中で 高校生のみなさんは 何を考えていましたか？

〔10月の日曜日、台風一過の前橋東高校のグラウンドでは野球部の練習試合が行われていました。〕

3月2日からの「全国一斉休校」は、子ども・生徒にとって、今までに経験したことのない大きな試練だったはずですが。しかし、一番の当事者である子どもや生徒の声や思いが丁寧に聴き取られているのでしょうか。

そこで県内の高校生は休校中をどう過ごし、何を考えていたかを知りたいと「高校生誌上座談会」を開きました。今回のニュースが、ささやかながら「意見表明」の場となり意見交流のきっかけとなればと願っています。

本来なら高校生のみなさんに集まってもらうところですが、コロナ感染防止のため、後にあげる四つの高校の先生にお願いして生徒さんにアンケートに答えてもらい、編集スタッフが座談会風に構成しました。

— まず、「全国一斉休校」と知った時の気持ちはどうでしたか？

・ ・ 嬉しかった ・ 緊張と不安が半々 ・ ・

A 正直のところ休校と知った当初は嬉しいと思いました。

B 休校にするほど、大ごとなのかと思った。

C その時はまだ休校が長引くと思っていなかったもので、勉強の遅れに対する不安よりコロナの感染状況から学校に行くことのほうがこわかったもので、正直うれしかったです。

D 学校に行けない、部活もできないと思うと悲しかった。今後に大きな不安を感じた。

E 友達に会えなくなるのが寂しかったです。先が見えない状況で不安もありました。

F 「たくさん休める」の嬉しさと、高校1年生としての緊張と不安で半々でした。

G 授業の進度が遅れて受験勉強に影響が出ないか、また休業中に自分で勉強が進められ

るかが心配でした。

H 最初は嬉しく思ったが、ニュースで感染者や死者の増えるのを知って喜んだことを反省しました。

— その後6月の授業再開まで、休業中の生活はどうしていましたか

・ 食べて寝てゲーム ・ ピアノ ・ 課題 ・

A 勉強をやる気にもならなかったし、外にも出られなかったから家でのんびりと過ごしていました。そのうち体を動かしたくなって、スケートボードを始めたりしました。

B 食べて寝て、太ったね。

F ゲーム、寝た。ゲームをしすぎて目が悪くなりました。

D なるべく早起きして生活リズムを崩さないようにしていました。勉強については学校から出された課題をやっていました。

C せっかくの休みなので、今まで興味があっ

ても時間がなくてできなかったことに挑戦しようとチェスを始めました。ピアノもずっと弾けていなかったのを毎日弾きました。

勉強は、前半は課題を中心に復習。休校延長後は少し焦りましたが、後半は学校から配信された動画を見たりして毎日同じリズムで過ごすようになりました。

H ほんの少し勉強をした。あとは少しだらけてしまっていた。私自身、家だとあまり集中できないので、いやでも学校はあった方がいいと思いました。

G 学校の課題のほか、塾の授業も家で受講できるようになったのでほとんど家から出なかった。でも学校がないと生活リズムが崩れてしまい、効率よく勉強ができません。

— 休業中の気持ちや考えたことは？ ……人生で一番楽しいかもしれない高校生活が奪われた……

A 休校が長くなるにつれ、学校や新型コロナ以前の生活が恋しくなっていました。

3か月も続くと、勉強の心配や来年の受験に対する不安も感じました。「いつまで休校が続くのか、このままずっと学校に行けなくなってしまうんじゃないか」と考えたり、「これから感染症のため永遠にマスク生活をするようになるのか」とも考えました。

D 授業がないので受験に間に合うのが不安でした。僕は野球部ですが、部活も最後の大会はもしかしたらできないのではないかと思います。

F 人類がコロナに負けるのかな、なんて考えてました。

C インターネット上では勉強の遅れに対して不安視する声が多かった。私は勉強に遅れがあるという自覚はあったが、それよりもコロナになったほうが大変だろうと、休校に対してマイナスの部分はまだあまり感じなかった。ただ不確実な情報ばかりで、誰かなにかはっきり言ってくれたらスッキリするのにな、と思っていました。

H 学校に通っていた時は「休みが欲しいな～」と思っていたけれど、休校が2ヵ月も続くと元の生活に戻りたいと思うようになった。

B 友人に会えないのが悲しい。人生で一番楽しいかもしれない高校生活が奪われた。

E 学校が再開した時、新しいクラスに馴染めるかが不安でした。

— 部活動が制限されて、どうしていましたか

…ラインで練習の動画、オンラインミーティング……

D 野球部なので自宅での練習や少人数で集まって練習しました。全体でこれだけはやるべきメニューなどを決めて、体力が落ちないようにしました。僕は主将ですので、自分の練習した様子を動画に撮ってLINEを通じて全体に伝えたいことを送りました。運動ができないので、野球に関する知識を増していくことにも力を入れました。顧問の先生が作成した打撃、守備、走塁の確認テストを行い、オンラインで大切なところの解説をしていただきました。

他にも、私達はオンラインミーティングを重ねていきました。今自分達にできることは何か、学校再開後はどうやっていくかを話し合っていました。これをやったことによって、再開後の練習、試合が有意義なものとなったと思っています。



C 4月に予定されていた新入生歓迎会の実行委員だったので、準備を重ねていた新歓ができなくなったことは残念。文化祭もなくなりショックだったが、コロナだから仕方ないと諦めがついた部分はあった。部活にも大きく響きましたが、部長だったので部員に何か今後の予定や方針を示したいと思いつつもできないのがつらかったです。

G 私にとって学校行事や部活は勉強の合間の息抜きのような存在なので、延期や中止は残念でしたが、コロナ対策をしながらできるかぎりのことをしていました。

A 私は生徒会長ですが、学校行事ができないかもしれないとなった時は、どんな形でも思い出に残るものをやりたいと思っていました。こんな大変な時だからこそ、楽しいことをできる範囲でする必要があると思う。

F 楽しみにしていた学校行事が中止になり、残念な気持ちです。

H 部活には入っていないし、行事もあまり好きではないので、そこまで「くやしい」とは思わなかった。



— 学校が再開されてから、感じたことは？

・ ・ 学校で3密を避けることは無理 ・ ・

A 外に出て友達と他愛もない話をできる幸せ、今までの日常は当たり前のように恵まれたことだったと感じました。また、ソーシャルディスタンスを保つことや3つの密を避けることが言われましたが、学校でそれらを完璧に守ることは無理だと感じました。

D 当たり前の日常が少しでも戻ってきたのでうれしかった。それとともに今後の授業の進み方に不安を感じました。

C やっと友達と会えてうれしかった。体がなまっていたので、分散登校で一日おきの学校でもかなり疲れ、自分の体力の落ち方に驚きました。

E 新しいクラスで新しい友達の顔の半分はマスクで隠れてしまっていて、コミュニケーションを取るのにとっても苦労しました。

H 友達に会えてうれしい気持ちと、群馬でも

コロナの感染者が増えていたので少し怖いな、という気持ちだった。

D 学校のありとあらゆる行事が中止になっているので、コロナと向き合った中で、新しい形の行事ができたと思います。

— 休業による学習の遅れはどうか。遅れについて、どう対応しようとしていますか

・ ・ 家での勉強には限界を感じた ・ ・

A どのくらいのペースで進むのが普通なのかわからないから、遅れを感じることもなかった。でもやはり学校がなかった3ヵ月分の遅れはあると思うから、その分は時間を作って自主的に勉強するしかないと思っています。

D 最近になって授業も遅れはとりもどしたように感じます。私は夏休みの課外補習に参加するなど、自分なりに対応しようと思いました。

G 年度当初の予定に比べると少し遅れがありましたが、先生は心配いらぬということだったので、特に対応はしていません。

H 家で勉強を一人で進めていくには限界を感じました。多少は予習をしていたので、学校再開後の速いペースにもなんとかついていけましたが—。

— これからの進路について、どんな不安を抱えていますか？

ただでさえ入試制度の不安が大きいのに

A 今まで通りの試験は行われたいのではないかと思うし、新型コロナによって廃れていく仕事も出てくると思うから、自分が気になっている職業は大丈夫なのかという先行きに不安は感じます。

D センター試験が共通テストに変わったり記述がなくなったりと、ただでさえ入試制度の不安が大きい中、新型コロナで今までのように受験会場で試験ができるのかといった新たな不安要素があります。

C 私は3年生なので、大学入試については「休校」を考慮したものにして欲しい。が今はいろいろ決定してしまっているから、やるしかない

のだとそれ以上は考えないようにしている（不幸な学年だな）。

G 私は2年生ですが、実際にオープンキャンパスに行けていないので、大学の雰囲気は掴みきれいていません。

B 不安はない。なるようになる。



— 経済面や健康面で、どんな不安を抱いていますか？

・子どもの基礎疾患が忘れられている・

D 冬になっても新型コロナがおさまることはないだろうし、インフルエンザなども流行してくるので、さらに感染症に対しては不安が大きいです。

C 健康面では私は喘息もちで、コロナに関してはいわゆる「基礎疾患のある人」です。しかし高齢者に重きが置かれ、子どもで基礎疾患がある人が忘れ去られている気がしています。私のように喘息のある人はかなり居るはずで、「子どもだから、かかりにくいから、重症化しにくいから大丈夫でしょう」という判断が安易に出されるのが怖いです。

G 自分が感染者や濃厚接触者になって、家族や友達にうつしてしまったり、迷惑をかけてしまったりしないか心配です。

*****誌上座談会を終えて*****

ご協力をいただいたのは前橋女子高校、前橋東高校、前橋清陵高校、伊勢崎清明高校の四校です。ただし学校によって1校1名、あるいは数名、またクラス全員が無記名で回答するなど、一律ではありませんでした。そのためA,B,C~の記号が特定の個人の回答に対応していない場合があることをご了解ください。

写真撮影のために前橋東高校、前橋清陵高校、玉村高校の皆さんにご協力をいただきました。改めて、ご協力いただいたすべての学校の生徒さんと先生方には感謝申し上げます。ありがとうございました。

《編集・撮影：瀧口典子・内藤真治・坂田尚之・田口有理・倉林順一》

B 親の仕事が少なくなり、経済的にヤバいです。

F 私の母は看護師ですが、職場で「患者さんが減ったので出勤日数を減らして。給料も減ります」と言われたみたいです。うちは両親が働いているけど、かなりキツそう。

—大人や社会・政治に対して、言いたいことがありますか

・・・危機感甘い、対応遅い・・・

A 経済をまわさなくちゃいけないというのはわかるけど、だからといって、今、キャンペーンをして旅行に行くのを促すのは違うと思います。

C 新型コロナに対して危機感でいったら「甘い」という印象、対応は「遅い」が感想。古い考え、やり方に執着して新しいことをしようとしない、行動力がない。

G 学校を9月始まりにするとか、明確でない話を無責任に出されると私たちは迷惑。

B ウソで社会が回っている。

F 給付金は世帯主でなくて個人への振り込みにしてほしかった。

H メディアリテラシーの低い人が多すぎる気がします。

